

住民無視の計画強行は許されない！

総務財政委員会 会派を超えて真相解明を求める声

2月24日（水）総務財政委員会において、あんさんぶる荻窪と荻窪税務署等用地の財産交換に関する議案が審議されました。

この間、財産交換を巡り様々な疑惑が明らかとなるなか、複数の会派から真相解明を求める審議が行なわれました。

しかし、質疑では様々な問題について区からの明確な答弁はなく、区長自らは一度も答弁に立たないなど、説明責任を果たすことはありませんでした。

大勢の住民が傍聴に駆けつけるなか、賛成多数で可決

委員会には大勢の住民が傍聴に駆けつけ、傍聴席は満席となりました。財産交換方針を巡る問題に多くの区民の関心が寄せられていることが示されました。

真相解明の責任が果たされないまま、多くの住民が見守るなか、採決は強行され、財産交換議案は賛成多数で可決されました。

傍聴者からは住民無視の計画強行に怒りの声が巻き起こりました。



総務財政委員会の当日は50名を超える大勢の住民が傍聴に駆けつけました。財産交換に関して、多くの住民が疑問の声を上げており、区の答弁に対して怒りの声が上げられました。

新たな問題が次々と...

- ◆ 情報公開請求により明らかとなった平成22年の要望書を巡り、これまでの議会への答弁が矛盾だらけだった事実が明らかに…。荻窪駅前開発を巡り、区はどのような検討を進めていたのか？ 国にカラ手形を交わし、2年半もの期間に何が行なわれたのか？
- ◆ 不動産評価額が事業者によって大きく異なることの問題点とは？
- ◆ 新庁舎棟建設に約40億円の税金投入を進めることの正当性は？

※詳細は裏面に掲載

継続審査を求める動議

自・公・未来・平和が反対

自無維クラブが提案した「継続審査」の緊急動議 党区議団は賛成するも、反対多数で否決

議案の審査は約6時間に及びましたが、疑惑が払しょくされるどころかさらに深まる状況となりました。区の説明責任が果たされないなか、質疑の途中、自民・無所属・維新クラブが財産交換議案の調査・審議は尽くされていないとして「継続審査」の緊急動議を提案。

党区議団は議案そのものに「反対」の立場ですが、真相解明が行なわれていないとして継続審査に賛成をしました。

しかし、自民・公明・未来・平和の会派が継続審査に反対し、採決が行なわれました。



総務財政委員会の金子けんたろう区議が審議を行いました。

総務財政委員会での各会派の賛否

総務財政委員会（10名）		継続審査への賛否		財産交換への賛否	
会派	議員	賛成	反対	賛成	反対
自民	浅井くにお		○	○	
	はなし俊郎		○	○	
公明	大槻城一		○	○	
	中村康弘		○	○	
未来	河津利恵子		○	○	
共産	金子けんたろう	○			○
自無	佐々木浩	○		退席	
平和	けしば誠一		○	○	
美杉	田中ゆうたろう	○		退席	
※委員長は採決に参加しない		3名	6名	6名	1名

□佐々木議員（自無）、田中議員（美杉）は採決時に退席

■継続審査の動議：反対多数で否決 ■財産交換議案：賛成多数で可決

区長追従の大問題

財産交換を巡り、新たな疑惑が次々と明らかになるなか、杉並区議会の多くの会派が、真相解明に背を向け、区長言いなりで採決を強行したことは重大な問題です。

本来であれば、二元代表制の一角として行政を監視することが議会の役割ですが、その責務を放棄する姿勢は許されません。

田中区長 真相解明に背を向ける

財産交換方針を強行

委員会でも可決

日本共産党 杉並区議団ニュース No.357号

〒166-8570 杉並区阿佐ヶ谷南 1-15-1 区議会内 Tel.03-3312-2111 (内線 2319)

次々と明らかとなる問題…区長の失政は明らか

問題① 議会への虚偽答弁

財産交換の理由として、区はこれまで大規模特養ホームの用地確保を主張してきましたが、実際は荻窪駅前開発の失敗のツケだったことがこの要望書の内容で明らかとなっています。

この間、平成22年当時の「荻窪税務署の建替え休止を求める」要望書は、その存在自体が議会にも隠されてきたものです。

しかもこの要望書は保存期間が3年しかなく、税務署建替え方針が確定する前に区が廃棄するなど、文書管理の在り方についても重大な問題があります。

問題② カラ手形の責任

要望書では、税務署を駅前に移し、賃料負担を無料にすることが示されていますが、具体的な用地確保は一向に進まず、2年半もの期間を費やしました。このようなカラ手形を交わしたツケとして、あんさんぶる荻窪廃止の事態に繋がっていることに対し、区は自らの責任については一切触れず「建替えを止められた」ことが重要だったとの認識を示しました。区の失政について何ら反省の態度を示さないなど極めて無責任な姿勢です。

問題③ 不動産評価額の正当性

あんさんぶる荻窪と荻窪税務署等用地の不動産鑑定評価額については、事業者により評価額が大きく異なる状況となっています。今議案ではあんさんぶる荻窪が43億4千万円、荻窪税務署等用地が43億1千万円です。

一方、平成26年3月に行なわれた不動産鑑定評価額ではあんさんぶる荻窪は29億9千万円、荻窪税務署等用地は27億9千万円となるなど、大きな乖離があります。区は乖離について「地価の変動等の影響」としてはいますが、十数億円の乖離については不十分な説明です。

そもそも、現在使用されている施設同士を財産交換することは極めて異例のことであり、手間も時間もかかる上、評価額の算定が適切に行なわれたのか、検証が困難な状況です。さらに、国による鑑定評価額も示されないなど、適切な審議に支障をきたす状況となりました。

鑑定評価時期	あんさんぶる荻窪	荻窪税務署等用地
今回の議案	43億4千万円	43億1千万円
平成26年3月	29億9千万円	27億9千万円

問題④ 新庁舎棟に莫大な税金 約40億円の税金投入に！

財産交換に伴い、既存のあんさんぶる荻窪と同様の複合庁舎棟が建設されます。この間の区の答弁では建設費として30億円程度と示されていましたが、今議会の答弁では39億円程度とさらに増額し、建設経費に莫大な税金が注ぎ込まれる実態が明らかとなっています。

築10年・建設費約30億円をかけたあんさんぶる荻窪を手放すことに道理はありません。

大規模特養ホーム整備についても、区の計画では荻窪税務署等用地の60%程度を使用するものであり、税務署を現在地で建替えたとしても整備は十分に可能です。



カラ手形を巡る経緯と詳細について、区議会ニュース356号に掲載しています。

財産交換方針を巡り、あんさんぶる荻窪の地元住民、町会、商店会では大きな反対運動が巻き起こっています。

こうした事態に、財務省は平成23年、朝霞市の国家公務員住宅建替え時に地元住民からの反対運動が行なわれたことに触れ「地元への理解を進めてほしい」と区に要望を行なっています。

「地元への理解は進まず」 国の要請にも背を向ける

国からの要望を受ける一方、区はあんさんぶる荻窪や当該地域の荻窪南側での住民説明会を一切行わないなど、住民への説明責任を投げ捨てています。

国の意向にも背き、地元住民を無視して計画に固執する区の姿勢は許されません。

今後も地元町会・商店会等の反対運動が広がる状況でもあり、計画の正当性が問われます。

区民の世論で財産交換方針撤回を！

財産交換議案が3月16日の本会議で成立した場合、荻窪税務署隣接の国家公務員宿舎跡地に新庁舎棟が建設されます。新庁舎棟の整備により、財産交換方針が具体的に動き始めます。

- 今後のスケジュール
- ・新庁舎棟 新築工事 平成28年7月～平成29年12月
開設予定 平成30年4月
- ・国と改めて財産交換を締結 平成29年度後半
- ・新庁舎棟へあんさんぶる荻窪内の各機能が移転 平成30年度
- ・あんさんぶる荻窪へ荻窪税務署機能が移転 平成30年度秋頃
- ・荻窪税務署用地の跡地に大規模特養ホーム整備 平成33年度

引き続き予算特別委員会で徹底追及します！

財産交換方針を巡り、住民の怒りの声が渦巻いています。あんさんぶる荻窪を廃止する財産交換方針を止めるためには、区民の世論の力で田中区政の暴走を止めることが必要です。

日本共産党杉並区議団は引き続き、住民と共に財産交換方針の撤回に全力で取り組みます！